

令和7年度

教育委員会事務事業点検・評価報告書

(令和6年度分)

大石田町教育委員会

目 次

I	大石田町教育委員会事務事業の点検・評価について	1
1.	制度の概要及び目的	1
2.	点検・評価の対象事業	1
3.	点検・評価の方法	1
4.	学識経験者の知見の活用	2
II	教育委員会の活動状況	2
1.	教育委員会の開催	2
2.	教育委員会会議以外の活動	3
3.	総合教育会議の開催	4
III	施策の体系	5
1.	基本目標	5
2.	基本的な方針	5
3.	施策の展開方向	6
IV	点検・評価事業と評価方法	12
V	意見の集約	12
	大石田町教育方針「評価シート」集計表	27
	※用語集	28

I 大石田町教育委員会事務事業の点検・評価について

1. 制度の概要及び目的

教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図り、自ら点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。

このことを受け、大石田町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすため、前年度に行った事務事業について点検・評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2. 点検・評価の対象事業

点検・評価は、「第7次大石田町総合振興計画」を受け、毎年策定する「大石田町の教育」（教育方針）に基づく重点施策の中から、「（コミュニティ・スクール関連を含む）学校教育関連施策9項目」、「生涯学習関連施策11項目」を対象としています。

3. 点検・評価の方法

点検・評価の方法は、学識経験者として学校運営協議会委員及び社会教育委員に意見をいただき、併せて、教育委員、事務局職員及び学校教職員による施策項目毎の5段階評価を行いました。

また、各項目の意見集約を行いました。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

4. 学識経験者の知見の活用

教育委員会が行う点検・評価については、法第26条第2項の規定に基づき「教育に関し、学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。」とされています。今年度も昨年同様に、町内小中学校運営協議会委員及び社会教育委員の方から、点検・評価の内容について意見をいただきました。

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会の開催

(1) 令和6年は、8回の教育委員会を開催しました。

① 第1回教育委員会 令和6年1月19日（金）

議案第1号 令和5年度大石田町教育委員会関係補正予算について

② 第2回教育委員会 令和6年2月21日（水）

議案第2号 令和5年度大石田町教育委員会関係補正予算について

議案第3号 令和6年度大石田町教育委員会関係当初予算について

③ 第3回教育委員会 令和6年3月6日（水）

議案第4号 令和6年度県費負担教職員の人事異動の内申について

議案第5号 令和6年度大石田町教育方針について

議案第6号 大石田町学校給食費の徴収に関する規則の一部を改正する規則の制定について

議案第7号 大石田町立歴史民俗資料館館長の任命について

議案第8号 大石田町立図書館館長の任命について

④ 第4回教育委員会 令和6年5月24日（金）

議案第9号 令和6年度大石田町教育委員会関係補正予算について

議案第10号 大石田町社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について

議案第11号 大石田町立歴史民俗資料館運営委員会委員の委嘱について

議案第12号 大石田町立図書館協議会委員の任命について

議案第13号 大石田町立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について

議案第14号 大石田町立小中学校教育職員の業務量の適切な管理等に

関する規則の制定について

- ⑤ 第5回教育委員会 令和6年8月1日（木）
議案第15号 令和7年度使用中学校教科用図書の採択について
- ⑥ 第6回教育委員会 令和6年8月22日（木）
議案第16号 令和6年度大石田町教育委員会関係補正予算について
議案第17号 令和6年度（令和5年度分）教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
- ⑦ 第7回教育委員会 令和6年10月1日（火）
指名第1号 大石田町教育委員会教育長職務代理者の指名について
- ⑧ 第8回教育委員会 令和6年11月21日（木）
議案第18号 令和6年度大石田町教育委員会関係補正予算について
議案第19号 大石田町立歴史民俗資料館運営委員会委員の委嘱について
議案第20号 大石田町立歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例の制定について
議案第21号 大石田町立歴史民俗資料館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

2. 教育委員会会議以外の活動

（1）令和6年度学校訪問

令和6年11月6日（水）大石田南小学校・大石田北小学校
大石田小学校・大石田中学校

（2）その他協議会・研修活動

① 令和6年7月12日（金）

東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会

・講演 「宇宙を身近にー有人宇宙開発とこれからの宇宙探査ー」

講師 鶴岡スペースステーション 代表 佐藤涼子 氏

・行政説明 「優れた教師人材の確保に向けた取組について」

講師 文部科学省総合教育政策局

教育人材政策課 課長補佐 重親龍志 氏

② 令和6年7月23日（火）

北村山市町教育委員会協議会総会・研修会（尾花沢市）

研修会 尾花沢市新庁舎について

③ 令和6年8月2日（金）

山形県市町村教育委員会大会（天童市）

講演 山形県出身法学者《虎に翼》

一宮城浩蔵（天童）と我妻栄（米沢）を中心に－

講師 明治大学図書館長

大学史資料センター所長

法学部教授 村上一博 氏

3. 総合教育会議の開催

（1）令和6年度総合教育会議

① 第1回総合教育会議 令和7年1月17日（金）

- ・ 小学校統合整備事業について
- ・ 町振興実施計画（教育分野）について
- ・ 町の教育行政全般について

Ⅲ 施策の体系

令和3年3月に策定された「第7次大石田町総合振興計画」における教育・文化分野の基本目標（6つの施策の柱）と基本方針等は次のとおりです。

学校・家庭・地域が一体となって子どもの成長を支え合う地域とともにある学校づくり、未来を切り開き生き抜く力の育成を重視した学校教育の充実、生涯にわたって心豊かに充実した生活を営むことができる生涯学習体制の整備、安らぎと喜びを与える文化芸術及び元気と感動を与えるスポーツの振興を図ります。次代を担う青少年の健全育成の推進や国内外との交流活動の推進に努め、豊かな心を育む教育・文化のまちづくりを進めます。

1. 【基本目標】

「 豊かな心を育む教育・文化のまちづくり 」

2. 【基本的な方針】

（1）地域とともにある学校づくりの推進

誇り（ふるさとを愛し、地域の文化や伝統を大切にする）と絆（学校・家庭・地域のふれあいと交流で活力に満ちる）と向上心（学ぶ楽しさやよさを実感し、いきいきと学びに向かう）を育む教育を、学校・家庭・地域が一体となり推進します。

（2）学校教育の充実

生き抜く力（学力・人間力・社会力）を身に付けた創造性豊かな児童生徒を育成するため、教育の情報化の推進など、教育内容の充実に努め、学校施設の整備等、総合的な教育環境の充実に努めます。

（3）生涯学習体制の充実

子どもから高齢者まで、生涯にわたって心豊かに充実した生活を営むことができるよう多様な学習活動を支援し、誰もが学べる生涯学習環境の整備を推進します。

（4）文化芸術・スポーツの振興

町民に安らぎと喜びを与える文化芸術及び元気と感動を与えるスポーツについて、町民のニーズを把握し、既存施設の有効活用や各種団体への支援を通して活性を図り、町民の主体的な活動の促進に努めます。

（5）青少年の健全育成の推進

青少年が健全に育成されるよう、学校・家庭・地域・行政が一体となった町ぐるみの支援体制を確立し、健全な社会環境づくりに向けた活動を推進します。

（6）国内外との交流活動の推進

グローバル化への対応やグローバルな視点で地域の良さを発見するため、国際交流活動、地域間交流活動を促進します。

3. 【施策の展開方向】

(1) 地域とともにある学校づくりの推進

ア 地域学校協働活動の積極的推進

- 学校経営に対する地域住民や各種企業・団体等の参画を組織的に進め、未来を担う子供たちの成長を支え合う地域学校協働活動の取り組みを推進します。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的推進により、新たな価値を生み出す社会に開かれた教育活動を推進し、多様で良質な学びの機会を保障します。
- 行政を含めた教育・福祉・保健等関係機関の連携をもとにして、家庭教育に関するきめ細かな支援と相談機能の充実を図ります。

イ 「引・伸・灯」教育の推進

- 「可能性を引き出し、良さを伸ばし、心に灯をつける」という視点を常に意識して、子どもからお年寄りまで、あらゆる年代に応じた教育活動を展開し、一人ひとりを大切にする教育活動を推進します。
- 地域共生・地域貢献を念頭におき、「誇り（ふるさとを愛し、地域の文化や伝統を大切にする）」と「絆（学校・家庭・地域のふれあいと交流で活力に満ちる）」と「向上心（学ぶ楽しさやよさを実感し、いきいきと学びに向かう）」を育む教育を推進します。

ウ 開かれた信頼される学校づくり

- 学校施設の地域への開放をはじめ、児童生徒や教職員の地域社会との交流、家庭や地域の声を反映した学校運営の推進を通して、開かれた信頼される学校づくりを進めます。
- 学校と地域の双方向の発信を通じた連携協働により、地域の特性を活かした魅力ある学校づくり、生きがいのある元気な地域づくりを進めます。

(2) 学校教育の充実

ア 生き抜く力の育成を重視した教育内容の充実

- 学力（まなぶ力）の向上を支える基礎的な知識と技能及び思考力・判断力・表現力を育成するため、読解力の向上を図り、主体的・協働的に取り組む探究型学習を促進します。
- 人間力（やりぬく力）の土台となる、考え抜く姿勢、困難を乗り越えようとする強い意志、健やかな体力を育成するため、学習方法の工夫、特別活動や学校行事への主体的な参画、体力・運動能力の向

上及び健康教育の充実に努めます。

- 社会力（つながる力）の育成に向け、人との関わりや体験活動を重視し、道徳教育や人権教育、福祉教育等の充実を図り、規範意識及び人間関係を構築する力を高めます。

イ 社会の変化に対応する教育の推進

- 情報活用能力（ＩＣＴ）や外国語能力（国際化）を伸ばす教育環境を整備・活用し、未来を切り開く力の基礎作りを行います。
- 専門性の高い高等学校・大学の教育力や、各種分野における一流講師の積極的な活用を通して、学びが好きになる学校づくりを推進します。

ウ 小中一貫教育の推進に向けた教育内容の工夫と統合への準備

- 教育環境の充実を図るため、児童生徒数の減少を見据えた小学校の統合計画を作成し、小中９年間の子どもの育ちを支える小中一貫教育を推進します。
- 小学校の統合に向けた準備及び中学校への円滑な接続を図るため、３つの小学校の同学年同士が一緒に学ぶ機会を定期的に実施し、スムーズな統合へと繋げていきます。

エ 多様なニーズに対応した教育機会の提供

- 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の実情を考慮し、学校における特別支援教育の充実を図るとともに、個に応じた適切な就学相談・指導に努めます。
- いじめや不登校などの心の問題に対し、心の教室相談員を中学校に配置して、小学校も含めた形で相談・指導の充実を図ります。
- 経済的困難を抱える家庭等に対する就学支援・援助を展開します。

オ 安全対策・通学対策の推進

- 施設・設備の定期的な安全点検を通して各学校との連携を強化し、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう努めます。
- スクールガードリーダーの配置や関係団体による見守り活動の促進等により、登下校時の児童生徒の安全対策の強化を図ります。
- 遠隔地の児童生徒が安全・安心に通学できるよう、スクールバスの運行の維持・充実を図ります。

カ 学校給食の従実

- 学校給食センターの適正な管理・運営を図るとともに、地産地消や

食育の視点に立った取り組みを進めます。

- 安全・安心な米飯を学校給食に提供するため、山形連携中枢都市圏連携事業における広域炊飯施設との連携を進めます。

（３）生涯学習体制の充実

ア 生涯学習施設「町民交流センター（虹のプラザ）」の積極的活用

- 生涯学習推進の拠点となる虹のプラザについて、誰もが使いやすく学びやすい環境づくりに努め、積極的な利用の促進に努めます。
- 地域課題の解決に向けた学習の機会及び実践の場を提供し、活力あるコミュニティの形成を支援します。

イ 生涯学習情報の提供と図書館の充実

- 子どもから高齢者まで、幅広い年齢の多様な学習活動を支援するとともに、利用者のニーズや社会情勢に沿った学習情報の提供に努めます。
- 利用しやすい図書館づくりを進めるとともに、幅広い世代の交流機会の拡大を目指し、適時性を伴った魅力ある企画展示やイベントを充実させます。

ウ 生涯学習事業の推進

- 常に各世代の学習ニーズの的確な把握に努め、幼児・児童・生徒・青少年・成人・高齢者の各世代に応じた生涯学習活動を企画・推進します。
- 公民館分館においては、中央公民館との連携を密にしながら、地域住民との協働による生涯学習活動の充実を図ります。
- 事業推進にあたっては、町ホームページや広報紙、各種関連施設への掲示等、多様な情報提供の場を活用し、町民への周知と参加意欲の向上を図ります。

エ 各種団体等の活動支援と指導者の育成

- 各種社会教育団体、学習団体及びグループ等の育成・発展に努め、自発的な学習活動を引き出し支援することによって、学び続ける風土を育てます。
- 様々な分野における生涯学習の指導者やボランティア等の育成・確保に努め、町民のニーズに応える学習団体が継続・発展するよう努めます。

オ 学習成果の活用

- 町民の学習活動を支援し、その成果を発表する場及び活用する場を確保することにより、学び続けることの意欲を高めます。
- 町民の学習成果を共有することにより、生涯学習社会を実現し、人づくり及びまちづくりに役立てます。

(4) 文化芸術・スポーツの振興

ア 心豊かな地域文化の形成と芸術の振興

- 地域の歴史・文化の継承と個性あふれる文化の創造に向け、町民主体の芸術文化活動を一層推進します。
- 文化や芸術を振興するための指導者やボランティアの育成・確保、より質の高い芸術に触れる機会の充実を通して「町民一人1芸術文化活動」を促進し、活性化を図ります。
- 歴史民俗資料館の整備・運営の充実を図り、啓発活動や講座、展示、情報発信を通して町内外の人々の意識の向上に努めます。
- 指定文化財の適正な保存・保護に努めるとともに、駒籠楯跡等の埋蔵文化財についても計画的に調査を進めます。

イ 元気と感動を与えるスポーツの普及推進

- すべての町民がそれぞれの体力や年齢に応じたスポーツ活動を行えるよう町民ニーズの把握に努め、誰もが参加できるスポーツ活動の場の提供と充実を図ります。
- ライフスタイルに合ったスポーツ・レクリエーションのあり方、スポーツの必要性・重要性に関する啓発活動等を通して「町民一人1スポーツ」を普及推進していきます。
- スポーツ協会をはじめ、各種スポーツ団体の育成・支援に努めるとともに、地域と一体となった指導者やボランティアの育成・確保に努め、スポーツ活動の活性化を促進します。
- 各種競技団体との連携を通して競技スポーツの強化を図るとともに、東北・全国・世界大会に出場する選手への支援や顕彰を行い、優秀な選手の育成に努めます。

ウ 主体的な活動を促進する組織体制の確立

- 芸術文化を愛する各種団体等が生きがいを持って主体的に活動できるよう、町芸術文化協会の組織の活性化に向けた支援に努めます。
- 「いつでも・どこでも・だれでも」、スポーツ活動を通じた仲間づくり・体力づくりができるよう、「大石田スポーツクラブ」の組織体制の強化と活動の活性化を図ります。

(5) 青少年の健全育成の推進

ア 青少年健全育成活動の充実

- 「青少年育成町民会議」及び「青少年育成推進員会」の活性化を図るとともに、青少年の健全育成に取り組む団体等を育成・支援しながら、学校・家庭・地域・行政が一体となったネットワークづくりを進めます。
- 健全な社会環境をつくるために、関係団体を中心とした非行防止や有害図書の浄化等に関する活動、地域における声かけ運動やあいさつ運動を進めます。

イ 家庭・地域の教育機能の向上

- 家庭教育に関する講座・教室等の開催をはじめ、広報・啓発活動や相談・情報提供等の活動を通して、家庭における教育機能の向上を図ります。
- 地域の教育力を活かした活動の発掘・支援に努め、地域における教育機能の向上を図ります。

ウ 青少年団体の育成と体験・交流活動への参画促進

- 子ども会、青少年団体等の育成・支援に努め、講座や各種教室の開催等を通して各団体のリーダーの育成を図ります。
- 青少年にとって魅力ある体験・交流活動を充実させ、地域活動及びボランティア活動への積極的な参画を促進します。

(6) 国内外との交流活動の推進

ア 地域間交流の促進

- 友好協定を締結している宮城県涌谷町とは、当町の豊かな自然環境や農業資源及び宿泊施設等の特性・資源を活かしながら、行政と関係団体と町民が一体となった交流活動を展開します。
- 県内に限らず、東北・全国に視野を広げ、学校教育及び生涯学習の場においても交流の糸口を探り、地域の活性化につなげていきます。

イ 国際感覚豊かな人材の育成

- 外国語の必修化等に伴い、国際理解教育専門員の積極的活用により、学校教育における外国語教育や外国語講座、国際理解を深める事業の充実を図ります。
- 国際交流活動の中心となる民間団体やリーダーの発掘・育成、国や県等の国際交流事業の情報提供等を行うことにより、町民の国際化への意識を高めるとともに、国際ボランティア活動への参加等、国

際協力活動の促進に努めます。

- 小中学生及び青少年の異文化交流事業を推進し、国際感覚豊かな人材の育成を図ります。

ウ 国際化に対応したまちづくり

- 外国人が住みやすく、訪れやすい環境づくりに向け、多言語版のパンフレット等の作成及び外国語観光案内人の育成等について検討を進めます。
- 大石田を訪れるまたは定住する外国人に対して、役場窓口や観光関連施設における分かりやすい対応を充実していきます。

Ⅳ 点検・評価事業と評価方法

点検・評価項目は、令和6年度大石田町教育方針「評価シート」により、「A. 地域とともにある学校づくりの推進」、「B. 学校教育の充実」、「C. 生涯学習体制の充実」、「D. 文化芸術・スポーツの振興」、「E. 青少年の健全育成と国内外との交流活動の推進」の分野ごとに5段階評価を行いました。

併せて、「特に良かった点」、「改善を要する点」について記述式により意見を聴取しました。

また、生涯学習分野では、さらに社会教育委員等から具体的事業について意見を聴取しました。

評価結果は、令和6年度大石田町教育方針「評価シート」集計表のとおりであります。

V 意見の集約

1. 教育方針評価（特に良かった点・改善を要する点）

（A）地域とともにある学校づくりの推進

〔1. 地域学校協働活動の積極的推進〕

（特に良かった点）

- ・地域学校協働本部との連携、学校運営協議会が機能している。本部がハブとなり、関係機関を結び付け、成果が出ていると思う。
- ・3校合同でのサンサンスタディの実施、学校支援（地域人材活用）等が充実していて広報も分かりやすかった。
- ・各学年の総合的な学習を中心に、地域共同本部と連携し学習活動を計画することができた。
- ・校外の地域人材活用が盛んに行われ、生徒たちの郷土愛が深まり、子どもたちも満足していた。また、社会科や総合的な学習との関連で、学びの多い活動となっていた。
- ・発達段階に応じた体験的学習が、体系的にコーディネートされていて、郷土愛の醸成や地域との交流の深まりなど、児童生徒の成長につながっていると思う。

といった感想が寄せられました。

（改善を要する点）

- ・地域人材活用において、活動の「ビルド」が多いので、活動の精選が必要である。高学年が忙しすぎる。
- ・学校運営協議会の改選に合わせ、自校だけでなく町内学校施設参観研修

など新たな取組があってもいいのではないかと委員の自覚も高まる気がする。

- ・毎年同じことを踏襲すると、徐々に学校でやることが多くなり、負担を感じることもある。

といった課題も挙げられました。

[2. 「引・伸・灯」教育の推進]

(特に良かった点)

- ・行事の実行委員、生徒会活動など生徒主体の活動が活発に行われている。
- ・児童の自主性に重きを置いた指導ができた。特に児童の活躍の場の創出、自己決定を意識した学校経営。
- ・特別活動を中心に、自己決定の場を多く設け、子どもを「支える」意識で学級経営、授業を進めた。子どもに任せながらも、目を離さないことを大切に、必要なところを見極めて言葉がけを行ってきた。今後も子どもを信じ、力を伸ばしていきたい。
- ・毎月の「子どもを語る会」で児童についての情報交換や、気になる児童についてのケース会議を開いたり、児童一人一人の実態に応じた迅速な対応を行ったことで、不登校の児童もなく、全員が落ち着いて活動できた。「なないろスコラ」の設置は良かった。

といった感想が寄せられました。

(改善を要する点)

- ・生徒に任せる活動が増えた分、教師がしっかりと指導を入れ、生徒に働きかけて活動の質を高めていく必要がある。
- ・意図的な取り組みと見とりの工夫。ただ、可能性の芽が出るのがかなり先なので、その取り組みが妥当なのか手探りの状態。
- ・学力向上。特に上位の子どもを増やし伸ばす対策があるとよいのでは。
- ・学校が社会や地域、学校という枠組みを外して関わらないと主体性や社会性のある子どもにはならないかなと思います。
- ・あまりにもカバーし過ぎた。少しの失敗も成長に必要だと感じる。時間が無いと「させる」になってしまうので、教師も子どもも見通しを持つようにする。
- ・「なないろスコラ」の取り組みを広報した方がよい。

といった今後の課題に対する意見もありました。

[3. 開かれた信頼される学校づくり]

(特に良かった点)

- ・学校便りから子どもたちの活動の様子がよく伝わってくると思う。フリー参観が増え、子どもたちの日ごろの様子を例年よりも多く目にするこ

とができた。

- ・学校や学年、学級日より、HPでの情報発信がよかった。見てくださる保護者の方も多かった。学校行事や各学年の活動で地域の方から協力していただいたり、交流したりして、関係を深めることができた。学級懇談会等でも、目指す子どもの姿やそのための方策を丁寧に伝えるように努めた。
- ・学校教育目標や目指す子ども像を常に意識した授業創りを学校として行うことができた。

といった感想が寄せられました。

(改善を要する点)

- ・教育目標や目指す子供像の共有はあまりできていない気がする。配信はするが、保護者や地域の人たちからの意見を聞く場面が少ない。
- ・できれば「学校日より」の全戸配布の復活を願う。
- ・町のHP内の学校HPに辿り着くまで、ちょっと遠いかなと思う。
- ・社会教育事業の意義について教職員のみなさんにより一層理解を深めていただき、子どもたちへの周知や参加の呼びかけをお願いしたい。
- ・地域との交流を実施しているものの保護者への周知不足な点があった。また、各学年の総合的な学習との関連性を持たせる点など児童、生徒のいない家庭では情報（様子）が伝わりにくい。
- ・コロナ禍でなかなか教育活動の公開（実際に見る機会）が激減し、内容の精選も行われたため、地域との交流は少なくなった。働き方改革との関連もあるが、統合小学校開校を見据え、どんな学校をつくっていくのかを、現在の3つの学校づくりを活かしながら検討してほしい。

といった意見もありました。

(B) 学校教育の充実

[1. 生き抜く力の育成を重視した教育内容の充実]

(特に良かった点)

- ・ICTを積極的に活用し、一人一人の実態に応じた指導や、興味関心に応じた授業が多く見られるようになってきた。
- ・単元全体を見通して、どの時間にどんな力をつけるのかを考えて単元構成、授業づくりを行うようにした。少人数学級であっても、意図的に協働的な学びや対話的な学びを仕組むようにし、ともに学び合うことのよさを実感できるようにした。
- ・校内研究として、特別活動を中心にして行った。子どもたちの主体性や対話する力が伸びてきている。
- ・協働的な学びの土台となる人間関係作りに力を入れた点。
- ・特別活動で得た技術を、教科に生かせるよう意識して取り組んだ。

といった感想が寄せられました。

(改善を要する点)

- ・ 一体的な充実や深い学び、教科や単元の本質に迫ることについてはまだまだ課題である。それぞれについて、子どもがどのような状態になればよいものといえるのか、勉強していく。
- ・ 教科の授業になると講義式の教師主導になる。深い学びを目指すとき、課題の吟味が必要。そこで、教科の指導案を書いて実践する。
- ・ 基礎学力向上対策。町全体として読書量を多くする工夫があるとよいのではないか。
- ・ 子どもに任せるだけでなく、教師がしっかり教えるところは教えられるよう、各学校で若手を中心に授業作りの研究を推進したい。
- ・ 学力観の捉え方、「個別最適な学び」の解釈のズレを感じる。教育の自由と放任ではない。一人一人の力に合わせて指導や支援を行うことが学校に求められていると考える。小規模校のメリットをもっと活かした授業づくりをしたい。

といった意見がありました。

[2. 社会の変化に対応する教育の推進]

(特に良かった点)

- ・ D X の推進により、紙ベースの資料が少なくなり、用紙やインク等の節約につながった。また、会議資料の保存も一元化できた。校務ソフト導入で教師の事務処理の負担軽減になった。
- ・ ロイロノートを中心に教育活動の I C T 化が進んでおり、個々の意見を授業の中に取り入れやすくなった。また、Z O O M 等で授業を配信し、欠席している生徒にも学びの保障を行っているので、ウェルビーイングに繋がっていると感じる。
- ・ 日常的に I C T を使っていくことで、小学校中学年段階であっても活用の幅を広げることができた。特に、即時共有や他者参照できる I C T のよさを生かすことができた。また、特別活動での子どもたちで創り上げる活動やその過程がウェルビーイングに向けた学びになっていたと思う。
- ・ I C T 支援員の計画的な配置がありがたい。また、校務支援ソフトの導入は、教員の仕事の効率化と児童のデータの確実な蓄積が図られありがたい。

といった意見がありました。

(改善を要する点)

- ・ まだまだ改善の余地がある。校内研修などで、いろいろな学校の実践を紹介するなど、教員の視野を広げたい。
- ・ 他者を受容的に受け入れる姿勢や言葉遣いなど。

- ・グローバル化に対応する教育に対する意識はまだ高まっていない。育てたい力を絞り込み、どこまで出来ればいいのかを校内で確認する。また、e-ライブラリーの活用度はとても低く、復習は紙のみを使用。自学2Pのマンネリ化からの脱却。今あるものを最大限に活用し、学力向上の切り口にする。
 - ・ディジー等読み上げソフトの授業での活用（テストを含む）、拡大したら理解できる児童への対応もお願いします。
- といった課題も挙げられました。

〔3. 小中一貫教育の推進に向けた教育内容の工夫と統合への準備〕

（特に良かった点）

- ・小中連携して授業改善に取り組んでいたと思う。
- ・サンサンスタディで何回も交流する機会があるのは有意義である。他校生との関わりがあり、中学校に上がる時に知らない人がいないのは不安が減るのでいいと思う。
- ・これまでの積み上げがよい影響となり、どの学年でも抵抗なく活動が行えていると思った。今年度から始めた修学旅行は、その集大成的な感じがした。
- ・サンサンスタディ(教科版)で主要科目だけでなく、総合や体育などを行なったことでより交流が図られよかったと思います。
- ・サンサンスタディについて、子どもたちは大変満足しており、有意義な時間だったと思う。統合への不安を軽減するよい機会であった。同時開催もよかった。統合を楽しみにしている児童もいる。
- ・小学校は校歌、運動着の他に教科活動がそろえられており、準備は整っている。また、行事や活動を体験・経験したことで、生徒の言動に成長を感じる人が多い。

といった意見がありました。

（改善を要する点）

- ・マイスターを経験して感じたが、各学校の「小中連携」という意識は低いと感じる。学校から代表を募り、マイスターなどを中心に組織的に小中連携の意識を高めていく必要がある。
- ・前年度よりは多く話し合っただけで授業づくりを行うことができたが、各校の担任全員で授業をするためにも、ねらいや発問、板書、分担等もう少し細かな計画をしていきたい。
- ・サンサンスタディと地域学校協働本部との事業に加えて突発的なものが入ると、教育課程が苦しくなる。
- ・中学校との活動のねらいの共通理解と役割分担の確認が必要。

という意見もありました。

[4. 多様なニーズに対応した教育機会の提供]

(特に良かった点)

- ・ 地元を良く知っている S C (※用語集 P. 28 参照) の存在は大きい。また、S S W C (※用語集 P. 28 参照) に関わっていただいたことで他機関との連携がスムーズになったことが多いと感じる。
 - ・ S C と養護教諭が連携し、教育相談期間を設けている。また、特にカウンセリングの必要な生徒については、ニーズに応じた対応を行っている。本校では不登校、別室登校の生徒も多いが、教員が連携し、丁寧に対応を行っている。
 - ・ 支援が必要な子どもについて、家庭に対してその子の未来を考えた支援を「チーム学校」として対応できていたこと。
 - ・ S S W C との連携で必要な医療へつなぐことができた。
 - ・ S S W C の先生に仲介してもらうことで、保護者との話し合いが容易になった。
 - ・ なないろスコラの開設。
- といった意見がありました。

(改善を要する点)

- ・ 丁寧な対応を行っていきたいが、純粋にマンパワーが足りていないと感じる。
 - ・ 改善が見られない家庭への支援の継続が課題。粘り強く関わり、ケース会議等で定期的に対応する。
 - ・ 多様な児童が増えている今、特別支援教育補助員への知識や心構えの指導の機会が複数回必要だと感じている。
 - ・ S S W C の活動はありがたい。活動の様子を可能な限り報告してほしい。
 - ・ 日程調整が難しい。
 - ・ 生徒の現状について共有できるようになっても、改善に向かうには、子どもの成長が大きく関わることから、長い時間が必要なことを認識した対応までは、できていないと感じる。学校卒業後まで見据えた福祉と連携した道筋が見えると保護者の不安等が軽減されるのではないかな。
 - ・ 関係機関からの情報がなかなか保護者に届かない。担任から伝えてはいけないと聞いているので、関係機関がしっかり情報を伝えることができるようにしてほしい。
- といった意見が寄せられました。

[5. 安全対策・通学路対策の推進]

(特に良かった点)

- ・ 移動の時にスクールバスを出していただいたので生徒の安全が図られてよかった。

- ・地域の方の献身的な協力。通学路の除雪。
- ・定期的な安全点検を行っている。また、異常が見つければ、すぐに報告し対応する体制ができている。整備箇所について、すぐ対応してくれる。
- ・各学校での通学路点検、関係機関との合同点検と早い対応が素晴らしい。
- ・スクールガードリーダーの先生には、登下校の見守りをさせていただいてありがたかった。
- ・毎朝、学校前で立哨していただき、安全に登校できている。
- ・バスの乗車・席等細かい部分まで気を配って指導を行ってきた。バスに定期的に同乗しての指導も行った。

といった意見がありました。

(改善を要する点)

- ・スクールガードリーダーは配置できていない箇所もある。
- ・バスの非常口からの脱出訓練をしているか。学校の防災機器を扱えるか。
- ・施設の老朽化への対応。特に照明設備。閉校後の施設の活用による。
- ・スクールガードリーダーの活動報告があるといい。あいさつの状況や防犯対策への要望など発信があるといい。
- ・今年度は、学童に行く児童も一緒に乗車することになったため、変更の連絡があると複雑になり大変だった。来年度は「すぐーる」で各家庭から連絡できるようになるとのことなので、ありがたい。

といった意見が寄せられました。

[6. 学校給食の充実]

(特に良かった点)

- ・地産地消メニューや季節のイベントに合わせたメニュー。
- ・いのちを育む食育については、委員会活動を通して、食材の魅力や、給食センターへのメッセージ作成などの活動を行うことができた。
- ・心を育む給食週間を設け、学校全体で食育の指導や委員会活動と関連した活動を行った。子どもたちは毎日の給食や一口メモを楽しみにしている。
- ・おいしい給食に感謝しかありません。
- ・給食センターの職員の方々から講話をしてもらい、児童の食に対する関心が高まった。
- ・給食費無償化。
- ・地産地消の献立では、献立表に載せていただいて子どもたちも楽しみにしている様子が見られた。毎日の給食がおいしく、子どもたちはほぼ完食している。
- ・地域の食文化を積極的に取り入れている。

といった意見がありました。

(改善を要する点)

- ・活動が形骸化していると感じる。
 - ・学校の登校日で、給食センターさんがお休みの日があつて、弁当持参しなければならない時がありました。できれば、給食を提供していただけると助かります。
 - ・無理な話ではあるだろうが、子どもたちが熱望するソフト麺復活に県はなにか方策はないのか。
 - ・献立の内容と量の充実。一品少ないように思います。
- といった意見が寄せられました。

(C) 生涯学習体制の充実

[1. 生涯学習施設（虹のプラザ）の積極的活用]

(特に良かった点)

- ・小中学生がエントランスで学習する姿に加え、ノートP Cで作業している様子も見受けられ、コワーキングスペースとしての活用も広がっていると感じた。利用者数は年々増えている実感があります。
 - ・芸術鑑賞教室や各種講演会での活用。学校生活外でも生徒たちはロビーや図書館を積極的に利用している様子。
 - ・ふれあい食堂などは、町民の居場所づくりとしてとてもいいと思う。
 - ・平日19時までの開館はとても使いやすい。たくさんの人が図書館を利用し学びを得ていた。行事等無くとも子ども達が居る状況。
 - ・いつも気持ちよく大ホールなどを使わせていただいています。感謝です。
 - ・連日様々な活動、会議などで活用されていると思う。
 - ・中学校から徒歩5分で何かと活用できた。自主学習する生徒が増えたように感じる。
 - ・窓口での職員一人一人の対応が町民に寄り添い丁寧だったと思う。
- という意見も頂きました。

(改善を要する点)

- ・学校教育で施設を活用できるように支援してほしい。
 - ・スポーツクラブなどの急な変更の場合、メールやLINEなどが使えれば利用者は助かると思います。
 - ・ゲームばかりの子ども達が見受けられる。
→室内でも遊べるニュースポーツの器具を置いたり、外の公園の充実化をするとよい。
 - ・せっかく素晴らしい施設があるので、スポーツ広場も含めて学校教育でも積極的に活用してほしい。
- といった意見がありました。

[2. 生涯学習情報の提供と図書館の充実]

(特に良かった点)

- ・絵本作家の講演会等、色々な企画・運営ありがとうございます。
- ・芸術鑑賞会でさまざまな作品にふれる機会があること。
- ・季節感のある掲示、テーマ図書等の企画展示が良かった。話題に合わせて図書の特集が組まれ、興味がそそられる。
- ・ホールでのイベントに合わせてこまめに展示を変えるなど、工夫を凝らし、飽きのこない企画展示となっていた。
- ・各学校との連携し、教材として使える本が充実している。町図書館の本を児童は楽しみにしています。
- ・県外から来るゲストも図書館のセレクションや展示が他と比べた時に工夫がされていて感激している方多いです。
- ・町の図書館から学習に必要な書籍を借りることができた。町図書館にない場合、他市町村から借りて対応してくださり、とてもありがたい。
- ・生涯学習講座や、図書館の企画など、いろいろと展開されていると思う。
- ・昨年に引き続き図書館として新たな事業やイベントを実施し（えきとしょや館内での朗読会、2日間のナイトライブラリー等）、町民が図書館に関心を持つきっかけづくりができた点。

といった意見がありました。

(改善を要する点)

- ・毎週日曜日の学習支援教室（町社会福祉協議会の活動）は、もっと町民に広まってくれば良いと思う。
- ・地域として町の図書館まで距離があるため、子どもたち自身の利用がやや少ない。
- ・町民の利用登録率アップ。外部機関や団体との連携を積極的に行い、図書館利用のメリットの周知を図る。
- ・小中学生の図書館の利用実態は調べていないが、一度も利用したことがない子どもをなくしたいと思います。教育活動の一つとして図書館見学や学習を定期的にやってほしい。

といった意見がありました。

[3. 生涯学習事業の推進]

(特に良かった点)

- ・町の広報は積極的に取材しており、内容が工夫されている。
- ・大石田AIRとしては幼児親子向けの音楽会企画や100歳体操への特別指導を行ったり、通常公演の実施、フェスなどで間口を広げる取り組み、町民とのコラボレーションなどやれる限りのことを実践しています。

- ・様々な企画行事を考えていただき参加できる。
 - ・町民大学や様々なイベントを行えている。
- などの感想も寄せられました。

(改善を要する点)

- ・公民館活動についてよく知らなくて申し訳ないです。
 - ・文化や芸術を残していきたいのであればもう少し全戸配布など駆使していきたいなという思いはあります。
 - ・各地区公民館単独での事業は困難。今後の維持管理についても考えなければならぬと思う。
 - ・公式HPやLINEを利用した虹のプラザのお知らせが少ない。
- という意見もありました。

[4. 各種団体の活動支援と指導者の育成]

(特に良かった点)

- ・かわまちづくりではお世話になりました。産学官連携した取り組みが行われて大変有意義でした。
 - ・地域学習に多くの方々に指導者や情報提供者としてかかわっていただけたこと。
- といった意見をいただきました。

(改善を要する点)

- ・指導者の育成などは聞いたことないですが何かどこかでやっているのでしょうか？
 - ・支援はできるが、指導者の育成は各団体の中で行われるのが望ましい。
 - ・団体の方達が自発的に動けていない。
→自責になるような取り組みをしていく必要がある。
 - ・部活動の地域移行、地域の団体育成。
 - ・虹のプラザでは小中学生や高齢者の利用が増えている一方、現役世代の利用者が少なく、利用者層が拡大できていない。
- といった要望や課題が寄せられました。

[5. 学習成果の活用]

(特に良かった点)

- ・中学校1学年の総合の学習の成果を青少年健全育成会議で発表させてもらっている。また、維新祭、キッズタウンなどにも生徒会執行部を中心に参加し活動させていただいている。生徒たちの成長につながりました。
- ・ホールの有効活用により各種団体の発表会が多く、他市町からの観客も多い。
- ・統合したら各校の伝統活動がひとつにまとまるので町づくりにつながる。

- ・「もっしえ」に5年生が参加し、大いに達成感を味わうことができた。
- ・中学生の大石田検定の展示は、とてもよかった。
- ・虹のプラザの掲示物で学びに交流ができているように感じる。
- ・「土に叫ぶ人」などの町民主体の演劇公演でしっかりと人を集めて盛り上がりを見せたのは良かったのではないかと思います。

といった感想がありました。

(改善を要する点)

- ・町民の学習発表を知ったり見たりする機会があると良い。
- ・「子どもサミット」の改善が必要。生徒会活動とリンクさせ、代表者だけの会議ではなく、もっと多くの生徒を巻き込んだ取り組みを行っていく必要がある。
- ・今年1月に本来であれば演劇公演を実施の予定ではありましたが、間に合わないという理由で実施しないことになりました。そうだとした場合の案や別のイベントをやることができたと思います。連携が薄かったのかなというのと、お互いの想いが弱いというのは感じました。自治体のイベントはよく止めるだけの判断をする印象があります。改善策はそもそもやってもらうというスタンスよりは、予算をこちらが確保している以上絶対にやらせるというつもりで動かさないといけません。文化芸術は気持ちの問題が最も大きいので、表現する人も運営する人も最後まで気持ちを切らさない工夫が必要だと思います。

などの意見がありました。

(D) 文化芸術・スポーツの振興

[1. 心豊かな地域文化の形成と芸術の振興]

(特に良かった点)

- ・秋の発表会に向けた各団体の利用が多い。
- ・歴史民俗資料館の企画をNHK等でPRしていて効果が大きい。
- ・さまざまな講演や発表の機会がある。
- ・大石田かるたで扱う場所を巡って、その土地について知ることができた。
- ・大石田AIRは今年度20組のアーティスト、20のイベントを行いました。
- ・芸術祭などにおいて、各団体の成果を発信できる場がある。
- ・「大石田の魅力発信」1年時総合。

といった評価をいただきました。

(改善を要する点)

- ・町内外への積極的な宣伝。もっと、魅力的なイベントが必要。
- ・町民が町民一人1芸術文化活動という町のスタンスを知らないし理解していないと思います。また町民に限らず大石田町を拠点とした文化芸術

の地域として北村山地区を引っ張っていくような大石田町になっていくと町民の意識も向上すると思います。それには学校教育から生涯学習まで境目のない交流と実践の場が必要なのかなと思います。

- ・活動人口は限定的。若年層の活動が必要。
- ・資料館の来館者を増加させるにはどんな施策があるか。
- ・駒籠の遺跡について、分かりやすいイメージ図をいくつか作成し発表して欲しい。
- ・文化の町としての取り組みを今後も続けてほしい。

このような意見をいただきました。

[2. 元氣と感動を与えるスポーツの普及推進]

(特に良かった点)

- ・先輩方の世界での活躍や全国での活躍は素晴らしい。
- ・齋藤元希選手の応援、激励会。町全体でパラ選手を応援できた。
- ・パラリンピックで盛り上がりました。
- ・部活動において、東北大会に出場した選手や県の選抜に選出された選手が多かった。全国大会で活躍する選手も出てきている。
- ・大石田AIRとしてはダンスクラブ発足しプロフェッショナルと共に舞台へ立つなどさまざまな機会を提供しています。
- ・様々なスポーツ教室が企画展開されている。ふれあいマラソンが様変わりし運営上大変になるかもしれないが、それ以上にどんな大会となるのかという期待感がある。
- ・激励金を継続できている。

といった評価をいただきました。

(改善を要する点)

- ・活躍選手の看板。金銭的な支援。
- ・部活動の地域移行が進んでいるように感じない。
- ・少子高齢化に向けて、ボッチャやモルックなど負担の少ない競技の普及を願う。
- ・全年齢的に男性のスポーツ参加が少ない。
- ・もっと若い推進委員を集めて若者が集まるスポーツも増やした方が良いと思います。
- ・全国、世界で活躍する選手の展示があるとなおよいのではと思う。多数の人に知ってもらう活動。
- ・スポーツイベントの見直し。
→各世代に合わせたスポーツイベントの開催、町駅伝大会のような町民全体で取り組めるイベントの開催。
- ・e スポーツなどスポーツの概念が変わってきているので、スポーツとは

- なにかをそもそも見直す必要がある。
→改善策は思いつきませんでした。
- ・支援方法。
→やはりスポーツによって競技人口、競争率が違うのでスポーツに応じた結果に対する支援が必要。
 - ・スポーツ広場の年間を通した活用法の検討を。
- といった意見や要望がありました。

[3. 主体的な活動を促進する組織体制の確立]

(特に良かった点)

- ・教科体育の年間計画を立て、学校全体で実施する運動領域の時期を揃えるようにした。それによって、学年間で交流しながら、教職員全員で子どもの体力を高めようと努めた。
- ・ゲートボール以外にも高齢者も無理なく出来るスポーツがある事を知りました。
- ・町民のスポーツに対する関心が高く、ソフトバレーボール大会やソフトボール大会への参加率が高い。
- ・スラックラインの体験ありがたかった。皆楽しんだ。
- ・スポーツクラブのおかげでスポーツを通じて仲間づくりがしやすくなっている。

といった感想や意見がありました。

(改善を要する点)

- ・役員の担い手が減ってきており、スポーツ団体の統合を検討しなければならない。
- ・活動を広める場がない。
- ・そもそもスポーツをする人を増やす。
→何年単位でやっていかないといけないものだと思う、どこの年齢層にどうアプローチするのかそれを全年齢層するとなると時間はかかるが増やすためにはスポーツに触れる機会を多くするべき。

といった課題や要望が寄せられました。

(E) 青少年の健全育成と国内外との交流活動の推進

[1. 青少年健全育成活動の充実]

(特に良かった点)

- ・地域の方から中学校の挨拶活動へのご意見を頂き、あいさつの木をつくることができた。
- ・大石田町の子供達は、みんな元気あってとても良いと思います。
- ・児童の作文発表の場を設けていただいた。

- ・ 青少年健全育成町民大会での中 1 の総合の発表。「こどもサミット」をもとにした主体的な活動。
- ・ 「こどもサミット」であいさつ運動の輪が広がっているように感じる。
- ・ 大石田の子どもは挨拶していると思います。
- ・ 各地域、各団体での見守り活動が、子どもたちの安心安全につながっていると思う。

といった評価や感想をいただきました。

(改善を要する点)

- ・ 活動をもっと学校の生徒に還元し、今後の活動に生かしていく必要がある。
- ・ こちらからあいさつすると返ってくるが、自分からは課題がある。
- ・ サミットにおける主体的な活動はとてもいいが、テーマをあいさつに限定しない方がいいのではと思います。
- ・ 「いじめ」などの人権に関わる内容についても考えたい。
- ・ コロナ禍以降、あいさつができない子どもが多くなった感じがする。

といった課題が寄せられました。

[2. 家庭・地域の教育機能の向上]

(特に良かった点)

- ・ いろいろな企画に感謝です。
- ・ 鷹巣雪国太鼓の指導を通して地域の方と深く繋がることができた。稲作やCM作りでも深く関わった。
- ・ P T A研修会として、県の事業を活用して町の補助事業として講演会を実施できたこと。
- ・ 「親と子のつどい」を保育園との協働により実施できた点。

といった感想がありました。

(改善を要する点)

- ・ 課題のある家庭の参加。
- ・ 町としても子育てについての講演を楽しい活動と合わせてしてはどうか。ぜひ推進していただきたい。

といった意見がありました。

[3. 青少年団体の育成と体験・交流活動への参加促進]

(特に良かった点)

- ・ 地域の行事に参加するボランティアについては、意識が高まっているように感じる。
- ・ 高校生を中心としたボランティアの地盤。
- ・ 二十四孝以外にも、県内の高校生ボランティアに周知してもらい、夏の

おはなし会や「にじっこひろば」のお手伝いに参加してもらうことができた。

といった感想がありました。

(改善を要する点)

- ・校内の回収ボランティアについては活動が形骸化しており、意識の高まりを感じない。
- ・児童会と校外のボランティアをもっと繋いでいきたい。
- ・小中学生の減少で、運営が困難になっている、困難になることが予想される団体をどう支援すべきか。
- ・活動の場がある事すら分かりませんでした。
- ・統合なども踏まえ、子ども会組織のあり方、組織改編なども検討が必要と思う。

といった課題が挙げられました。

※用語集

- ・ S C （スクールカウンセラー）
- ・ S S W C （スクールソーシャルワークコーディネーター）